

とこなめ陶の森 資料館 企画展

2019. 8. 3 [土]  
10. 14 [月・祝]

EDD  
OOTSU  
常滑の  
井戸筒展  
- いどづ -

見に来てね...



## 1 井戸の歴史と名称

人々の生活において必要な水を得る施設に井戸があります。井戸は「井」とも呼ばれており、河川や池・沼などの自然の利用したもの（自然井）と人工的に掘削したもの（人口井）があります。一般的な井戸のイメージは縦に穴を掘ってつくられた人口井で、最も古い事例は弥生時代中期頃のもの知られています。

現在も使用されている井戸の名称は「筒井」<sup>つつい</sup>、「板井」<sup>いたい</sup>、「石井」<sup>いしい</sup>、「真名井」<sup>まな井</sup>などがあり、目に見えない井戸の地下部分に関する平面形態や構築素材の種類、機能などによって様々な名称がみられます。また、井戸の上部施設は一般的に「井筒」<sup>いづつ</sup>や「井戸側」<sup>いどがわ</sup>とも呼ばれています。『日本国語大辞典』によると、井筒は「木や石などでつくった井戸の地上の囲い。円形、方形がある。井戸側。化粧側。井桁」とあります。井戸側は「井戸の側壁を囲んで、土砂が崩れ落ちないようにしたもの。また、なかに落ちる危険を防ぐために井戸の地上の部分を囲んだもの。多く円形状で、木、石などでつくる。井筒。井桁」と記されています。まとめると、井筒と井戸側は同義語と考えることができ、井戸を構築する地下の防護壁とともに地上の施設（井筒）も含めて井戸側が説明されています。つまり、井戸側は井戸の側壁全体を指す意味で使用されていると考えられます。また、木や石を素材とし、平面形態が方形のものは井桁あるいは井戸枠の名称が想定されます。

## 2 常滑の井戸筒

常滑の井筒は「井戸筒」<sup>いどつ</sup>、「井戸側」<sup>いどがわ</sup>、「井筒」<sup>いづつ</sup>の名称があり、「井戸筒」が一般的に使用されています。常滑の井戸筒の生産が始まったのは江戸時代と考えられています。江戸時代以前は知多市下内橋遺跡で常滑窯<sup>かめ</sup>の甕の底に穴をあけて積み重ねた室町時代の井戸が発見されています(図1)。また、江戸時代後期になると、東海地方の遺跡で井戸筒の出土事例が報告されています。廻船問屋瀧田家文書に残された注文書には、「井戸側」の名称で、伊勢湾を中心に江戸方面にも運ばれていたことが記されていますが、関東地方の出土例はまだありません。

江戸時代の井戸筒は甕の胴部下半を切り取ったような円筒の形状で、胴部上半にヘラで「ハ」の字を横にしたような刻文が施されています。これは木製の桶の強度を高めるために使用される箍<sup>たが</sup>の意匠と考えられるものです。

明治・大正時代は土管と同様に木型を用いた大量生産がおこなわれていました。装飾は雷文や剣菱文<sup>かみなりもん けんびしもん</sup>、花菱文<sup>はなびしもん</sup>などがあります。これらは石膏型<sup>せつこうがた</sup>を用いて長方形の粘土板を貼り付けたものや、円筒形の印判で表面を転がすようにして文様をつけるリズも利用されています。大正時代以降になると装飾方法が簡略化され、木型に直接装飾を施したものもある一方で、草花や家紋を立体的に表現した華やかな装飾も出現します。<sup>くさばな かもん</sup>

常滑の井戸筒は戦後も変わらず生産されていましたが、昭和30年代後半<sup>しゅうえん</sup>に終焉を迎えます。その理由は愛知用水による上水道の普及です。知多半島の至るところでみる事ができた井戸は次々と埋められていきましたが、やきもの散歩道の界隈や古い町並みでみかけることができます。近年は各自治体が設置する「防災用井戸」が注目されており、井戸の価値が改めて見直されています。

(とこなめ陶の森 小栗康寛)

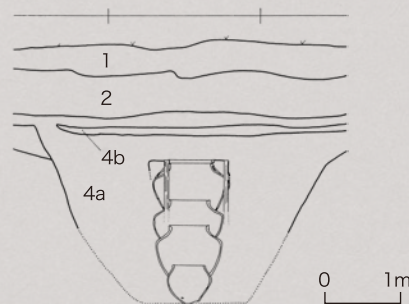


図1 知多市下内橋遺跡で検出された井戸(縮尺1/100)  
知多市教育委員会 1996『下内橋遺跡』より

1



2



6



3



1 櫛状装飾のある井戸筒 (江戸時代後期)

2 屋号入りの井戸筒 (明治時代)

3 花菱文のある井戸筒 (大正時代)

4 「用水」文のある井戸筒  
(大正~昭和時代初期)

5 牡丹唐草文の井戸筒 (大正時代)

6 「縄」文装飾のある井戸筒  
(大正~昭和時代初期)

5



4



いろいろな  
色や形が  
あるよ！



《 装飾道具 》

7



石膏型

8



リンズ

9



木型



①

常滑市

登窯



②

常滑市

廻船問屋  
瀧田家



③

常滑市

常盤晒



④

美浜町

大御堂寺  
野間大坊



会って  
来しね

IDOOTSU

まちで見られる  
井戸筒

まちで見られる



選



東浦町

⑤

海印寺



高浜市

⑥

春日神社



半田市

⑦

赤い井戸

❖ ① 常滑市 登窯

国指定の登窯を支える黒い井戸筒  
《明治時代末期～大正時代》

❖ ② 常滑市 廻船問屋瀧田家

短い土管の様な雰囲気井戸筒  
《明治時代後半～大正時代》

❖ ③ 常滑市 常盤晒 木綿の店 瀧田

本来は土管だがこれも井戸筒  
《明治時代》

❖ ④ 美浜町 大御堂寺 野間大坊

常滑の職人が寄付した井戸筒  
《明治41年》

❖ ⑤ 東浦町 海印寺

曹洞宗大本山總持寺の紋が入った  
井戸筒《昭和52年》

❖ ⑥ 高浜市 春日神社

立体的な鹿が裝飾された逸品で、常滑  
の職人がつくった井戸筒《明治34年》

❖ ⑦ 半田市 赤い井戸

新美南吉の生家の周辺にある井戸  
筒 とても古い《江戸時代後期》

講演会 常滑の井戸筒

8月24日(土) 10:00~11:30

場 所：資料館 2階 講座室

参加費：無料 (予約不要)

講 師：小栗康寛 (とこなめ陶の森)



常滑の井戸筒展

とこなめ陶の森 資料館

常滑市瀬木町4丁目203番地

TEL: 0569-34-5290

<http://www.tokoname-tounomori.jp>